



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 大日向 輝美

保護者の皆様におかれましては、平素より本学の教育に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、当初の予想を超える拡がりを見せ、コロナ前後の価値観が変わるほどの変化を社会にもたらしています。働き方を含めた人々の日々の行動や、ものの考え方にも変革が迫られており、大学教育も以前と異なる対応が求められています。

4月以降、入学式は中止、全学年とも登校は1日のみで、4月中は在宅での課題学習、5月初めからはオンラインを活用した遠隔授業を行っています。友人との語らいや課外活動ができないなど学生生活は大きく制限され、オンラインのみの授業や臨床実習の延期等に不安や焦りを感じている学生も多いことと思います。大学等を対象とした北海道知事からの休業要請は5月31日をもって解除され、6月1日から本学も行動指針^注の制限レベルを4（制限大）から3（制限中）に引き下げましたが、当面はオンライン授業を継続し、一部の演習・実験・実習のみを対面で実施します。オンライン授業では通信環境の事情によって様々な影響が生じることが考えられますが、学修の公平さが失われたり不利益が生じたりしないよう教育的配慮を行いますので、ご安心ください。

このような状況下において、保健・医療の専門職を養成する本学に寄せられる社会からの期待は極めて大きいものがあります。しかし、診療や看護に携わる医療従事者の働きに注目が集まっている一方で、一部の人々から向けられる理不尽な言動も社会問題となっています。学生には将来の医療従事者として、危険に向き合いながら自らの役割を果たす使命感と責任感を改めて自覚するとともに、将来像の見つめ直しや医療従事者となる覚悟と決意を固める契機となるよう、この日々を過ごしてもらいたいと思います。学生一人ひとりが医療を学ぶものとしての責任を果たし、力を合わせて困難を乗り越え、前進していくことを願っています。

緊急事態宣言は解消されましたが、油断できない日々が続きます。引き続き体調等崩されませんようお気をつけください。

注) 「新型コロナウイルス感染拡大防止のための札幌医科大学の行動指針」

URL:<https://web.sapmed.ac.jp/jp/section/publicity/jmjbbn000000p56s-att/jmjbbn000000qca7.pdf>



【令和2年度 学事予定】（1～4学年）

4月 6日	新入生オリエンテーション
5月 7日	前期講義開始（遠隔授業）
6月25日	大学記念日
7月27日～8月 7日	前期定期試験（4年生 看護）
8月10日～8月21日	夏季休業（1・2・3年生）
8月10日～8月21日	（4年生 看護）
8月 3日～8月21日	（4年生 理学）
7月20日～8月 7日	（4年生 作業）
9月 7日～9月25日	前期定期試験（1・2年生）
8月31日～9月11日	（3年生 看護）
9月 7日～9月25日	（3年生 理学・作業）
9月28日	後期講義開始（1・2年生）
10月15日～10月17日	体育祭
12月 4日	文化芸術祭
12月21日～1月 3日	冬季休業
2月16日～3月 5日	後期定期試験（1・2年生）
1月25日～1月29日	（3年生 理学）
2月16日～3月 5日	（3年生 作業）
3月19日	卒業式



新入生オリエンテーション



学科長ごあいさつ

看護学科長 今野 美紀



新型コロナウイルス感染症流行により、激動の新年度が始まりました。本学看護学科への入学そして進級の喜びを学生・保護者の皆様と直に喜び合うことができず、耐える時間を過ごされていることと察します。この状況を看護との関連でみますと、今年はナイチンゲール生誕200年です。ナイチンゲールの時代と今の時代に共通していることが二つあります。一つは、健康の脅威に苦しむ人々・地域を肅々と支える看護職がいること、そしてもう一つは、どの時代の看護職も学び続けて英知を蓄えていることです。

私たちは、本学看護学科のカリキュラムの質を保ち、学生の皆さんの学びを進められるよう、遠隔授業用に授業内容を組み替えて参りました。初めての事に一抹の不安を抱えて始動した授業でしたが、皆さんの能動的な学習姿勢、提出レポート内容の適切さ、授業への適応の早さから、その不安は一掃されました。これは新しい時代の看護学の教育を現在進行形で創造しているものであり、皆さんは協同の学習者としても本当に頼もしい存在です。

社会的距離をとる行動変容を余儀なくされても、人を尊重し、関わり合うことを大事にしてきた本学看護学科の学習基盤に変わりはありません。この先も様々な方法を通じて体現して参ります。皆さんが体験していることに耳を傾けながら、一緒に新しい看護学を創造していけたらと思います。保護者の皆様におかれましても、ご支援を頂きますよう、今後もよろしくお願ひします。

理学療法学科長 小塚 直樹



新型コロナウイルス感染症の影響で、不自由と窮屈を強いられる新学期のスタートとなりました。理学療法学科の学生諸君の平常心が試される時と考えております。理学療法学科の教員一同は学生諸君と共に、この難局を突破する所存であります。

理学療法士養成に関する長い歴史と伝統を持つ本学科は、理学療法関連の各領域に精通した教員を配しております。1993年の保健医療学部開設より一貫して、理学療法学の教育、臨床、研究のバランスを重視した指導スタイルを堅持し、最新の教学施設、附属病院をフルに活用することにより、最適な養成プログラムを提供します。

理学療法の基礎教育と臨床教育の教授は勿論のこと、最先端のテーマを教材とした講義を軸に、少人数による問題解決型教育による演習、実習をシームレスに展開していきます。確かな臨床実践能力と豊かな人間力を持ち、重要な意思決定が出来る人材育成に努めております。

理学療法士として39年を経た私は、改めて「理学療法学は骨太な学問である」と感じております。学問体系の構造はシンプルですが、理論はとてつもなく頑丈です。この学問の基盤を学び、本学の求める人物像に近づいてくれたならば、「鬼に金棒ならぬ、理学療法士に太い骨」ということになるでしょう。

健康であることを喜ぶこと、心身に不調があったとしても生活の質(Quality of Life)を保ち、幸福感をもつこと。人が求めるそのような基本的な願いを理学療法がしっかりと支えています。必要性は簡潔明瞭ながらも、その対象は幅広く、今後も大きな発展の可能性をもっていることに間違いはありません。本学科はこのような重要な理学療法を学修する最適な学舎であると考えております。

作業療法学科長 松山 清治



今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で異例尽くめのスタートとなりました。

私は4月1日に作業療法学科長を拝命しましたが、新入生の皆さんとは4月6日に短時間お会いして以降対面の機会がなく6月を迎えてしまいました。現在全学年で遠隔授業が実施されていますが、大学から離れて教育を受けることへの戸惑いや不安を抱く方も多いと思います。教員としましても学生の皆さんと直接向き合って心の通い合う教育が行えるように対面授業の再開を待ち望んでいるところです。

21世紀も20年が経過し、この間われわれの社会に様々な変化が生じ、幾つもの新たな対応が求められてきました。医療面についてみると、わが国は諸外国に先行して超高齢化社会を迎え、近い将来に『人生100年時代』も現実となりつつありますが、高齢化の進行により心身の衰えであるフレイルや加齢に伴う脳障害である認知症は増加の一途にあり、今後家族や社会に一層の負担が強えられることは必至と考えられます。

これらの治療やケア方略の発展は、わが国の公衆衛生上の優先課題であり、方略の一つとしてリハビリテーションの重要性が強く認識されています。21世紀に入り科学技術の進歩は目覚ましく、医療分野でも様々な革新が起こっていますが、これに合わせて作業療法分野においても新たなリハビリテーションの創造が必要とされています。大学4年間の教育は創造力の基礎を培う上でとても大切であり、作業療法学科教員一同、学生の皆さんが将来創造力を如何なく発揮できるよう教育に心血を注いで参りたいと思っています。

1. 札幌医科大学の行動指針

行動指針（前述）に従い、研究活動、授業（講義・演習・実習）、学生の行動等について、規制しております。本学において5月31日まで「行動指針レベル4」でしたが、6月1日より、「行動指針レベル3」に移りました。

関連URL：<https://web.sapmed.ac.jp/jp/section/publicity/jmjbbn000000p56s.html>

2. 行動指針に従った授業（講義・演習・実習）

オンライン授業を基本とし、一部の、演習、実習等は感染拡大防止措置を講じた上で、対面で実施しております。

保健医療学部では、2種類のオンライン授業（ZOOMとMoodle）により対応しております。

ZOOMは教員と学生、あるいは学生同士がコミュニケーションできる双方向型の学習環境です（写真）。

一方、Moodleは、学生が教材にアクセスして学習する、e-ラーニングの形態を持つオンライン教育システムです。



ZOOMによる双方向型授業

3. 4つの対策チーム

学生の状況に十分に配慮しながら例年教授してきた内容を担保し、かつ安全、有効に授業を展開する目的で、4つの対策チームが連携しながら活動しています。

- ◇ **学部授業担当G**は、学事、時間割の調整、授業形態の調整と実施、検証を行います。今後、対面授業が可能となった場合、隣接学生との距離を保ち、使用する講義室をクラスごとに固定し、座席を指定します。学生数の倍の定員の講義室を確保する対策をとります。
- ◇ **遠隔授業等対応G**は、PCやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用する授業の準備・実施、検証を行います。事前調査に基づき、通信環境の整備を要する学生に対して、期間限定的に必要な機器の貸与を行っています。
- ◇ **感染対策G**は、教室、演習室、実習室の感染予防策の計画・実施、検証、感染予防用品の管理・整備を行います。日々の授業が安全に行われるための役割を担います。
- ◇ **学生連絡調整G**は、授業等に関する学生への連絡事項の発信（学生サポートシステム、ホームページ）を行います。状況が変化した場合の連絡をいち早く届ける役割を担います。

4. 学内の協力・連携

保健管理センターと協力・調整を図りながら学生の皆さんの健康面にも対応しています。ここに、その一部をご紹介します。

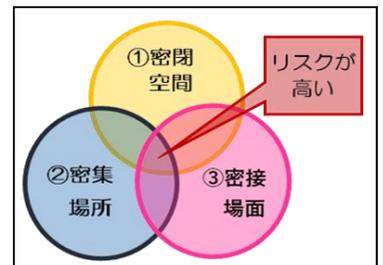
～手指衛生～

- ◇ 接触感染の予防において、手指衛生は重要です。本学部教員と保健管理センターによって作成された、「動画でわかる手指衛生－正しい手の洗い方－」を保健医療学部ホームページに掲載しています。

URL：https://drive.google.com/file/d/1SXe9r6CNmO__X3a3TIqpGaIMzuVXhZ1q/view

～共有場所・共有物の消毒～

- ◇ 対面授業を行う場合、大勢の人が触れる場所の消毒をするため、消毒用アルコール、ペーパータオル、ゴミ箱を各講義室に準備しています。
- ◇ 定期的に机や椅子の消毒作業を行うよう体制を整えています。



～新型コロナウイルス感染症にかかる悩みや不安～

- ◇ 新型コロナウイルス感染症の流行により、誰もがかつて経験したことのない、非常にストレスフルな状態が長期間継続しています。このような環境下においては感染予防対策と同時に、心の健康管理も大変に重要です。
- ◇ 心の健康を保つためのセルフケアに関する情報を得たり、状況によっては保健管理センターへご相談いただいたりするなど、学内にあるさまざまな資源を是非、積極的にご活用ください。

URL：<https://web.sapmed.ac.jp/jp/news/topics/jmjbbn000000q9yu.html>

保護者の皆さまにおかれましては、この時期に新しい学生生活を迎えることになったご子息、ご息女のことを思い、ご不安等が多くおありのことと存じます。そのようなお気持ちをできるだけ取り除いていただけるよう、今回は教務委員会の活動や学内連携等をお伝えしました。

今後の学生生活を健康で安心して送ることができるように、教職員が一丸となり、教育、学生支援に取り組んで参りますので、本学部の対応に関してご理解・ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和2年度保健医療学部同窓会からの支援

令和2年5月29日（金）、学長会議室において、保健医療学部同窓会から保健医療学部学生に対する経済的支援及び保健医療学研究科学生の研究活動に対する感染予防物品のご寄贈をいただき、感謝状贈呈式を執り行いました。

新型コロナウイルス感染拡大が長期化する中で、遠隔授業の実施やアルバイト収入の減少など学生生活に大きな経済的影響を受けていること、また、研究活動が一部制限されている中、研究活動中の感染予防が重要となることから、このようなご寄贈に大変感謝しております。

感謝状贈呈式後、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中での教育に関する課題などの意見交換を行いました。



塚本学長、館保健医療学部同窓会長、大日向保健医療学部長

令和元年度卒業生の国家試験合格状況

- 看護師国家試験は48名が受験し、全員が合格しました。（合格率100%）
看護師国家試験17年連続合格率100%を達成しました！！
- 保健師国家試験は10名が受験し、全員が合格しました。（合格率100%）
- 理学療法士国家試験は20名が受験し、全員が合格しました。（合格率100%）
- 作業療法士国家試験は21名が受験し、19名が合格しました。（合格率90.5%）

※合格率（全国平均）

- 看護師国家試験…89.2%
- 保健師国家試験…91.5%

- 理学療法士国家試験…86.4%
- 作業療法士国家試験…87.3%

